

(Vista Version)

Excel 2007 中級関数



初歩からのPCテキスト

第 1 章	切り捨て・切り上げ・四捨五入.....	5
[1]	準備.....	5
[2]	ROUNDDOWN 関数とは(概要).....	6
[3]	ROUNDDOWN の操作.....	6
[4]	桁数にプラスの値(正の数)を指定する.....	8
[5]	桁数にマイナスの値(負の数)を指定する.....	9
[6]	その他の桁数.....	10
[7]	その他の処理方法.....	11
[8]	ROUNDUP 関数と ROUND 関数(資料).....	13
[9]	練習問題.....	14
第 2 章	論理式.....	16
[1]	準備.....	16
[2]	論理式とは.....	17
[3]	基本的な論理式.....	17
[4]	再計算.....	18
[5]	比較演算子.....	19
[6]	右辺を文字にする.....	20
[7]	「以外」を作成する.....	21
[8]	空欄の際に TRUE とする.....	21
[9]	練習問題.....	22
第 3 章	関数のネスト.....	24
[1]	準備.....	24
[2]	関数のネスト.....	25
[3]	もう一度関数のネストをやってみる.....	29
[4]	練習問題.....	33
第 4 章	べき乗(べきじょう).....	35
[1]	準備.....	35
[2]	べき乗(べきじょう)の使用.....	36
[3]	練習問題.....	37
第 5 章	複数の論理式-AND 関数・OR 関数.....	38
[1]	準備.....	38
[2]	AND 関数とは(概要).....	39
[3]	AND 関数の使用.....	39
[4]	OR 関数とは(概要).....	43
[5]	OR 関数の利用.....	43
[6]	練習問題.....	45
第 6 章	IF 関数 1.....	47
[1]	準備.....	47
[2]	IF 関数とは(概要).....	48
[3]	IF 関数の効果.....	48
[4]	セルの指定と空白の指定.....	50
[5]	数式の指定.....	51
[6]	文字データの評価.....	52
[7]	空白の検索.....	54
[8]	練習問題.....	55
第 7 章	IF 関数 2.....	58
[1]	準備.....	58

	【2】	3つの場合分け	58
	【3】	3つ以上の場合分け	62
	【4】	3つ以上の場合分け(まとめ)	65
	【5】	AND 関数を論理式に採用する.....	65
	【6】	OR 関数を論理式に採用する.....	68
	【7】	練習問題	71
第 8 章		アンパサンド[&]	75
	【1】	準備	75
	【2】	&[アンパサンド]の使用	75
	【3】	セルと文字データそのものを連結する	76
	【4】	空白を付ける.....	76
	【5】	練習問題	77
第 9 章		順位を調べる RANK 関数	78
	【1】	準備	78
	【2】	RANK 関数とは(概要)	78
	【3】	降順で使う RANK 関数.....	79
	【4】	昇順における RANK 関数	82
	【5】	練習問題	83
第 10 章		VLOOKUP[近似値検索].....	85
	【1】	準備	85
	【2】	VLOOKUP 関数とは(概要)	86
	【3】	VLOOKUP 関数で使用する対応表の作成	87
	【4】	VLOOKUP 関数の使用.....	87
	【5】	作成の復習	90
	【6】	練習問題	92
第 11 章		VLOOKUP 関数[完全一致検索]	94
	【1】	準備	94
	【2】	従来どおりの VLOOKUP 関数	94
	【3】	近似値のテスト	96
	【4】	完全一致検索の VLOOKUP 関数とは(概要)	97
	【5】	完全一致検索を採用する.....	98
	【6】	完全一致検索の効果	100
	【7】	完全一致検索の VLOOKUP 関数を作成	100
	【8】	完全一致検索の特徴	102
	【9】	練習問題	103
第 12 章		COUNTIF・SUMIF.....	105
	【1】	準備	105
	【2】	COUNTIF 関数とは(概要)	106
	【3】	COUNTIF 関数の利用.....	106
	【4】	SUMIF 関数とは(概要)	109
	【5】	SUMIF 関数.....	109
	【6】	練習問題	112
第 13 章		IF 関数を利用した空白・エラーの回避	116
	【1】	準備	116
	【2】	IF 関数を用いたエラーの回避.....	118
	【3】	手入力で空白時のエラーを回避する	121
	【4】	ISERROR 関数とは(概要)	123

[5]	エラーを発見する論理関数[ISERROR]	123
[6]	エラーの回避・最終処理	124
[7]	練習問題	126

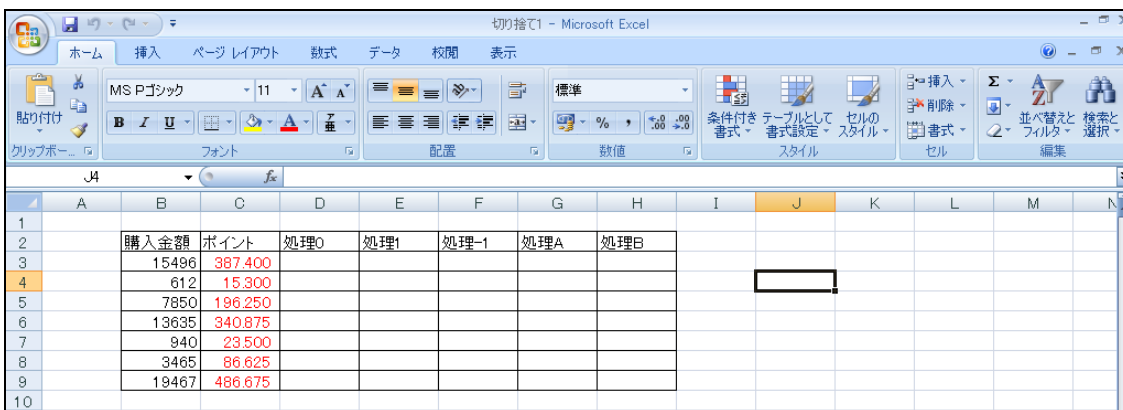
- 記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。
 - 本書の例題や画面などに登場する企業名や製品名、人名、キャラクター、その他のデータは架空のものであります。現実の個人名や企業、製品、イベントを表すものではありません。
 - 本文中には™, ®マークは明記しておりません。
 - 本書は著作権法上の保護を受けております。
 - 本書の一部あるいは、全部について、合資会社アルファから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複製、複製することを禁じます。ただし、合資会社アルファから文書による許諾を得た期間は除きます。
 - 無断複製、転載は損害賠償、著作権法の罰則の対象になることがあります。
 - この教材はMicrosoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
 - ◆ 著作・製作 合資会社アルファ
 - ◆ 発行人 三橋信彦
 - ◆ 発行 〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 118-2 中山 NSビル 6F
 - ◆ 定価 ¥5,040 円

第1章 切り捨て・切り上げ・四捨五入

【1】 準備

次のような計算表を作成しましょう。C列の値はB列の値を0.025倍したものです。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		購入金額	ポイント	処理0	処理1	処理-1	処理A	処理B	
3		15496	387.400						
4		612	15.300						
5		7850	196.250						
6		13635	340.875						
7		940	23.500						
8		3465	86.625						
9		19467	486.675						
10									



[2] ROUNDDOWN 関数とは(概要)

ROUNDDOWN 関数は、選択したセル・数値を切り捨てて処理する関数です。引数には「数値」「桁数」の2つが必要です。

ROUNDDOWN 関数の書式

=ROUNDDOWN(数値, 桁数)

…[数値]を指定した[桁数]で切り捨てる。

<引数解説>

数値: 切り捨てて処理をしたいセル・数値を指定する欄

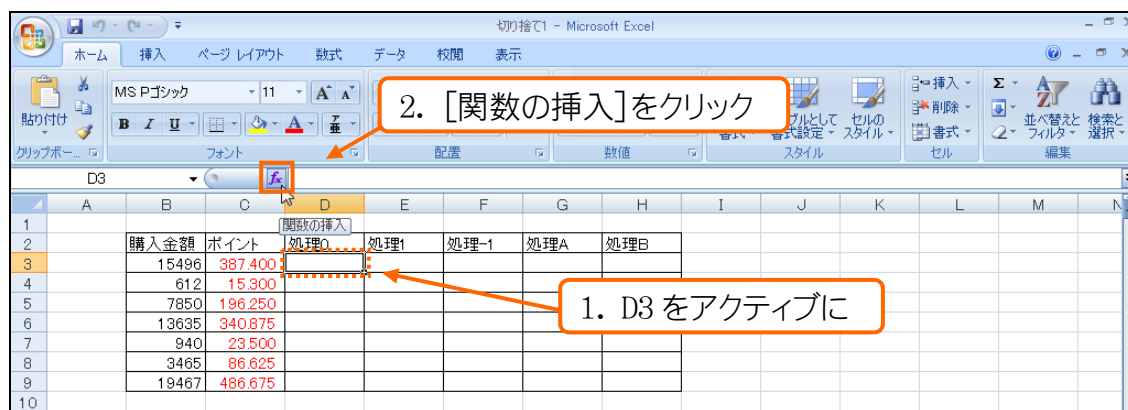
桁数: 小数点以下をすべて処理する場合には「0」を指定。小数点以下の一部を処理する場合には、何桁目の次を処理するのかを数値で指定。整数部(十の位、千の位など)以下を処理する場合には、一の位なら「-1」、十の位なら「-2」、百の位なら「-3」のように指定。

	A	B	C	D	E
1					
2		1234.567			
3					
4		桁数	処理後	C列に入力されている式	
5		0	1234	=ROUNDDOWN(B2,B5)	
6		-1	1230	=ROUNDDOWN(B2,B6)	
7		-2	1200	=ROUNDDOWN(B2,B7)	
8		-3	1000	=ROUNDDOWN(B2,B8)	
9		1	1234.500	=ROUNDDOWN(B2,B9)	
10		2	1234.560	=ROUNDDOWN(B2,B10)	
11					

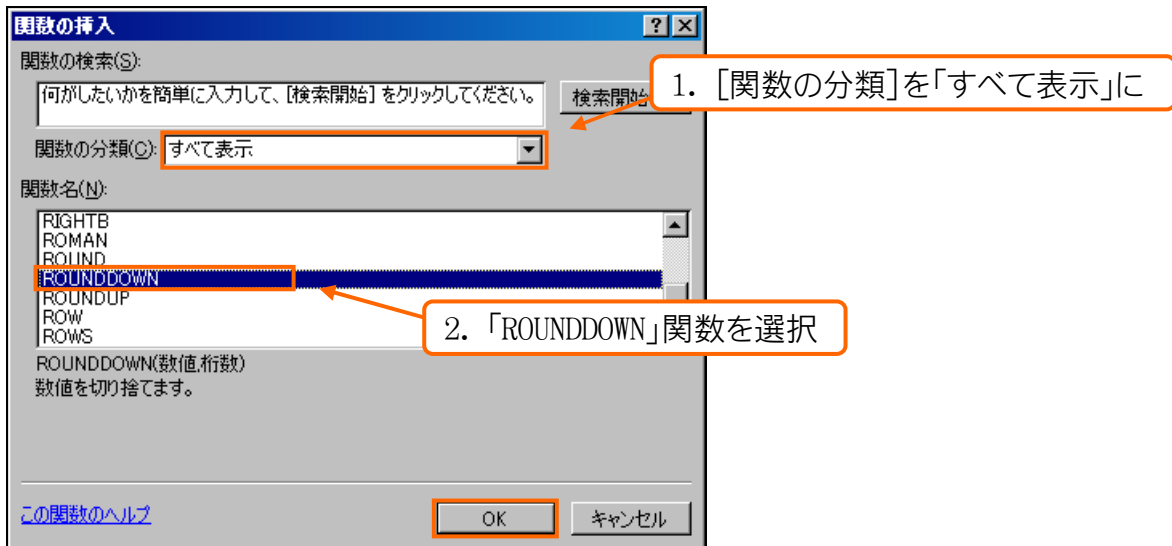
例

[3] ROUNDDOWN の操作

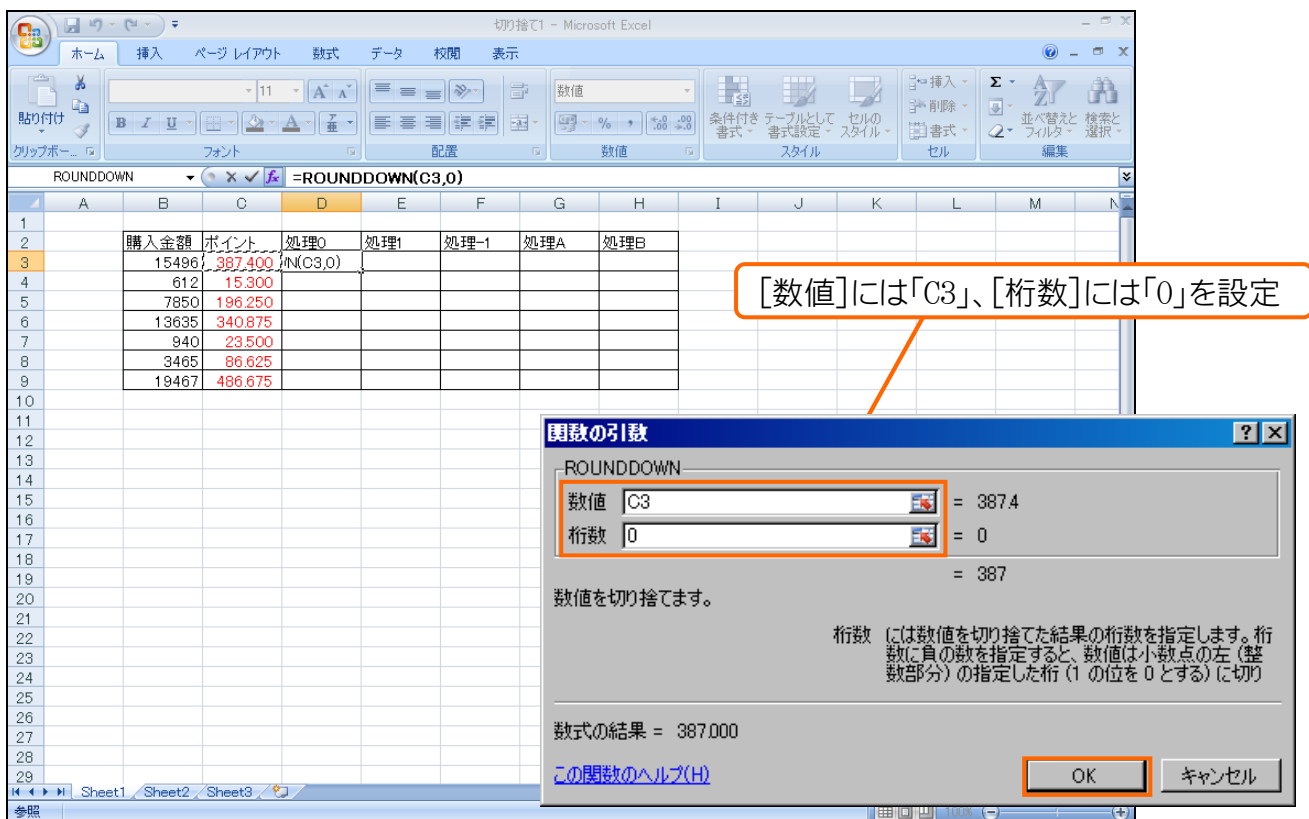
(1) D列にはC列の値を整数化させた値を表示させます。小数点以下の端数は切り捨てます。使用するのは ROUNDDOWN 関数です。D3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックして下さい。



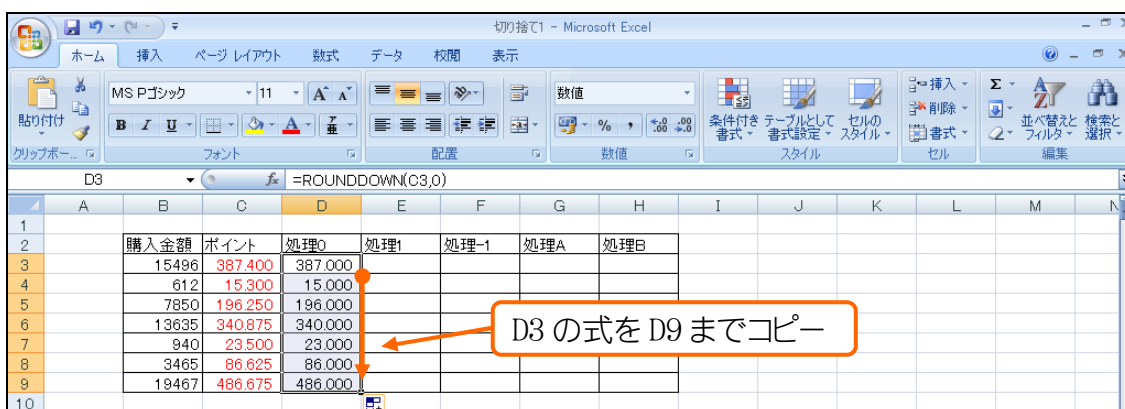
(2) [関数の分類]を「すべて表示」にしてから「ROUNDDOWN」関数を選択して下さい。



(3) [数値]には「C3」を用います。端数処理したい数値が入力されているセルを指定するのです。[桁数]には「0」を入力してOKします。小数点以下を処理して、整数化するには、[桁数]「0」を採用するのです。

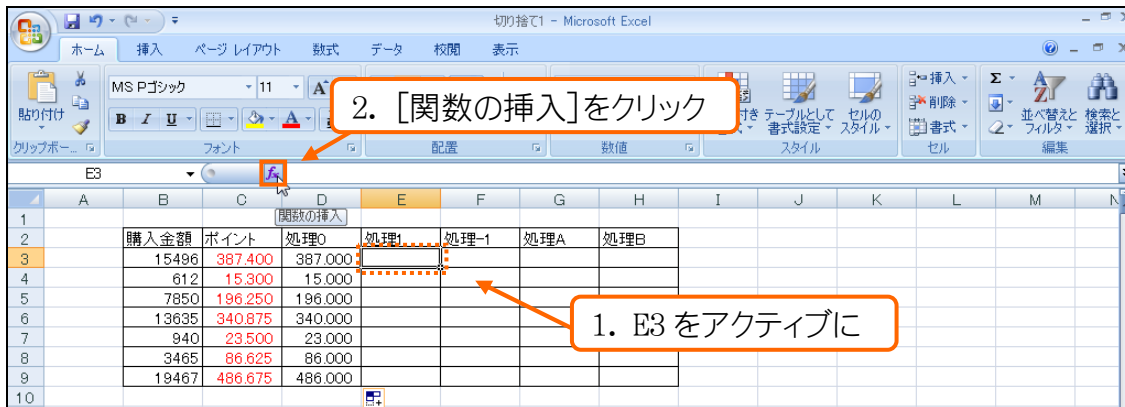


(4) D3 の結果を D9 までコピーしましょう。それぞれの値が小数点以下で切り捨て処理された事がわかります。

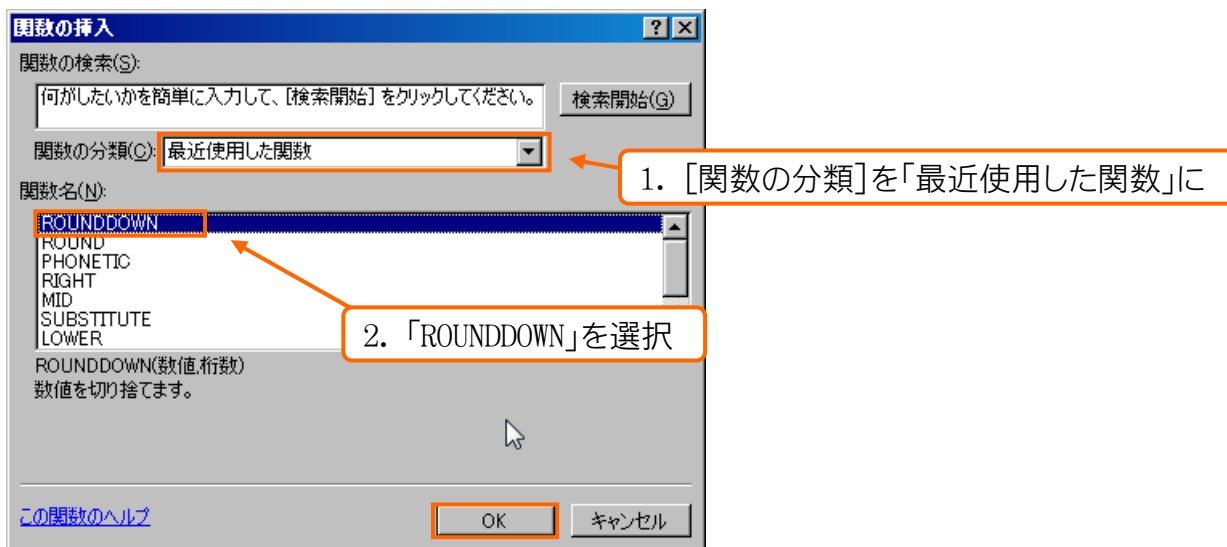


[4] 桁数にプラスの値(正の数)を指定する

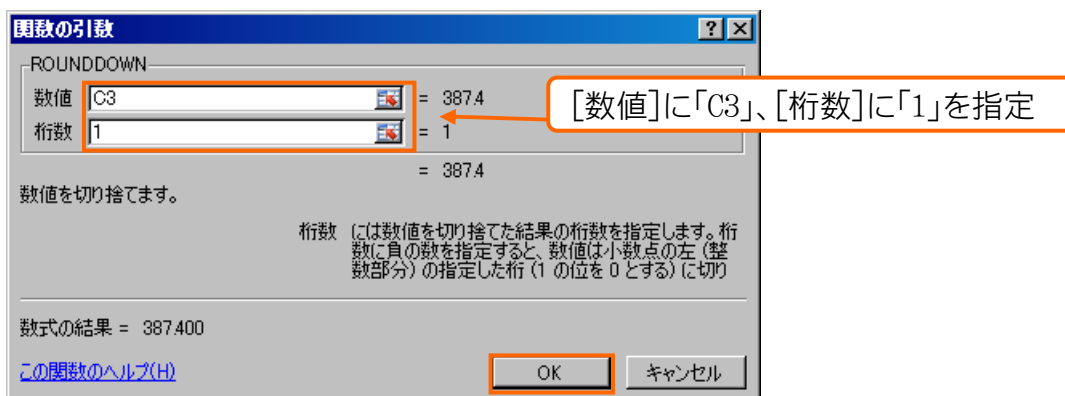
- (1) E列(処理1)にも、各ポイントを、切り捨て処理をした結果を表示させます。ただし、小数点1桁目は残し、2桁目以降を処理するのです。ROUNDDOWN関数を使用するという事は同じです。E3をアクティブにしてから[関数の挿入]をクリックして下さい。



- (2) 「最近使用した関数」から「ROUNDDOWN」を選択しましょう。



- (3) [数値]には、先ほどと同様「C3」を採用します。[桁数]には、小数点何桁まで残し、それより後を処理するか、を指定します。小数点1桁まで残すので「1」と指定してOKして下さい。



- (4) E3に作成された式をE9までコピーしましょう。小数点2桁以下が処理され、小数点1桁目までが残ります。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		購入金額	ポイント	処理0	処理1	処理-1	処理A	処理B
2		15496	387.400	387.000	387.400			
3		612	15.300	15.000	15.300			
4		7850	196.250	196.000	196.200			
5		13635	340.875	340.000	340.800			
6		940	23.500	23.000	23.500			
7		3465	86.625	86.000	86.600			
8		19467	486.675	486.000	486.600			
9								
10								

[5] 桁数にマイナスの値(負の数)を指定する

- (1) 今度はF列に、一の位以下を切り捨てた結果を表示させます。十円単位にするのです。ROUNDDOWN関数を使います。F3をアクティブにしながら[関数の挿入]をクリックして下さい。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		購入金額	ポイント	処理0	処理1	処理-1	処理A	処理B
2		15496	387.400	387.000	387.400			
3		612	15.300	15.000	15.300			
4		7850	196.250	196.000	196.200			
5		13635	340.875	340.000	340.800			
6		940	23.500	23.000	23.500			
7		3465	86.625	86.000	86.600			
8		19467	486.675	486.000	486.600			
9								
10								

- (2) ROUNDDOWN関数を採用して下さい。さて、[数値]は「C3」です。続けて[桁数]です。一の位以下を処理し、十の位を残す場合には「-1」を指定します。設定後はOKして下さい。なお、十の位以下を処理する際には「-2」、百の位以下を処理するなら「-3」になります。

関数の引数

ROUNDDOWN

数値: C3 = 387.4

桁数: -1 = -1

= 380

数値を切り捨てます。

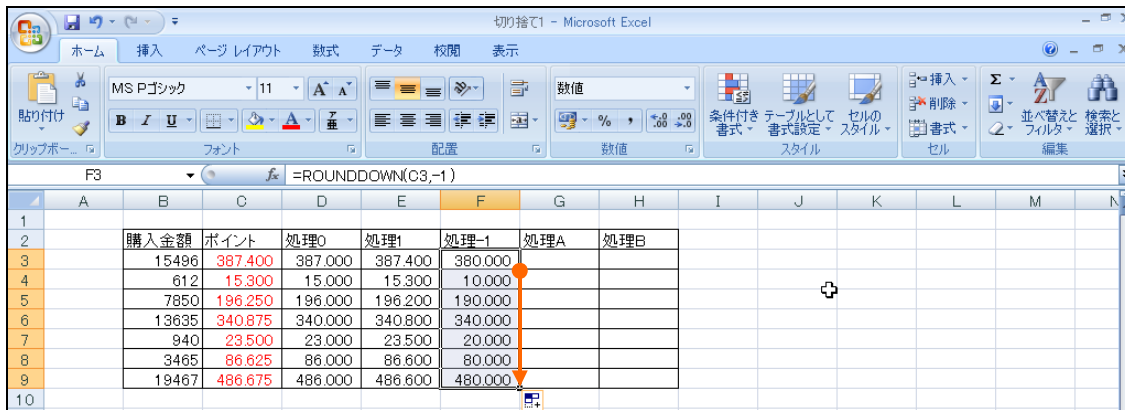
桁数 (には数値を切り捨てた結果の桁数を指定します。桁数に負の数を指定すると、数値は小数点の左(整数部分)の指定した桁(1の位を0とする)に切り

数式の結果 = 380.000

この関数のヘルプ(H)

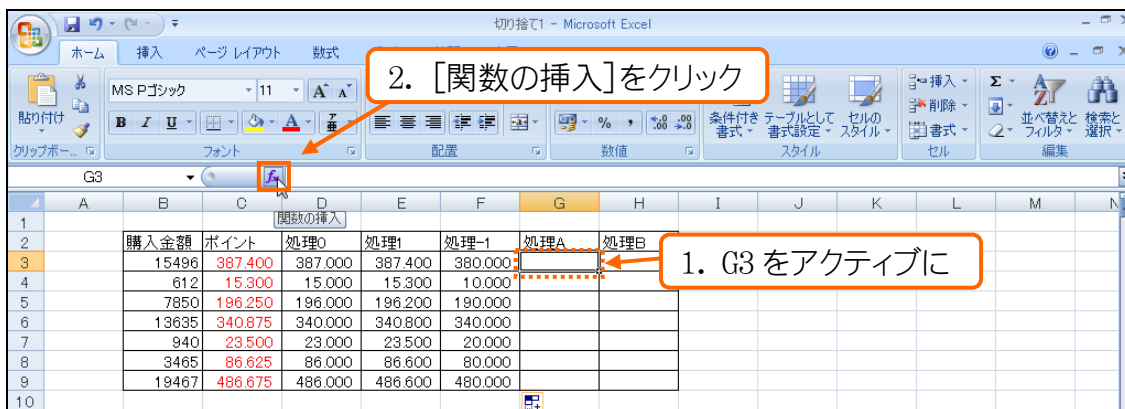
OK キャンセル

(3) 完成後はコピーしましょう。



[6] その他の桁数

(1) G列ではB列(購入金額)の、十の位以下を処理した値を表示させます。[桁数]は「-2」になります。マイナスで指定した分だけ、「0」が作成されます。G3をアクティブにし、[関数の挿入]をクリックして下さい。



(2) ROUNDDOWN関数を選択します。[数値]を「B3」、[桁数]を「-2」にします。このように、[桁数]は小数点を基準にして、どの程度離れた部分以下を処理するか、を指定する欄なのです

